

**角膜内皮の再生医療 早期事業化を目指す
再生医療製品候補 AE101 の製造を J-TEC で開始**

アクチュアライズ株式会社（京都府：代表取締役社長 杉岡郁、以下アクチュアライズ）は、株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所（愛知県：代表取締役社長 日高有一）と共同で開発を進める角膜内皮の再生医療製品候補（開発名：AE101）の製造を株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング（本社：愛知県蒲郡市、代表取締役社長執行役員：島賢一郎、以下 J-TEC）で開始いたしました。当社は、再生医療等製品の開発・製造販売において豊富な実績を持つ J-TEC に製造委託することにより、AE101 の開発を促進し、角膜内皮の再生医療の早期事業化を目指します。

当社は、角膜内皮疾患全般に対する再生医療とフックス角膜内皮ジストロフィに対する薬物治療など、新規の眼科治療を開発する同志社大学発のバイオベンチャー企業です。角膜内皮は角膜を透明に保つために不可欠ですが、障害を受けることで角膜が白く濁り重度の視力障害を生じます。角膜内皮障害は角膜移植の原因の半分以上を占め、角膜内皮障害による角膜移植は年々増加の一途をたどっております。一方で、世界的にドナー角膜が不足しており、その解決が望まれています。当社は、ドナー角膜より培養した角膜内皮細胞と ROCK（Rho-associated kinase）阻害薬を混合した再生医療等製品候補 AE101 を開発しており、ドナー不足を解消し角膜内皮再生医療を早期事業化することを目指しております。

角膜内皮障害について；

角膜内皮は、角膜の内側（眼内側）に位置しており、角膜を透明に維持するために不可欠です。生体では再生しないために病気や眼科手術などにより障害を受けることで、角膜が透明ではなくなり白く濁り重度の視力障害を生じます。現在の治療法は、亡くなったドナーより提供された角膜を移植する角膜移植のみとなっています。しかしながら、世界的なドナー不足、移植片（グラフト）不全、拒絶反応、手術の難しさなどの問題があります。角膜移植は不可欠な治療法である一方で、患者さん、眼科医にとって負担が大きいというのが実情です。

アクチュアライズ株式会社（本社：京都府京田辺市）について

小泉範子および奥村直毅（ともに同志社大学生命医科学部教授・眼科医）の研究成果によって設立されたバイオベンチャー企業です。フックス角膜内皮ジストロフィおよび水疱性角

膜症などの角膜内皮障害への再生医療および薬物治療の研究開発を行っています。詳細につきましては、アクチュアライズ株式会社ウェブサイト www.actualeyes.co.jp をご参照ください。

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング (J-TEC(ジェイテック))について

J-TEC は「再生医療をあたりまえの医療に」をビジョンに掲げる再生医療メーカーであり、日本初の再生医療等製品となる自家培養表皮「ジェイス®」をはじめ4つの再生医療等製品を製造販売しています。同社は再生医療製品事業（日本における再生医療等製品の開発・製造・販売）の他に、再生医療受託事業（再生医療に関する CDMO/CRO サービス）、研究開発支援事業（研究用ヒト培養組織の開発・製造・販売）を行っています。詳細につきましては、J-TEC ウェブサイト www.jppte.co.jp をご参照ください。

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所（本社：愛知県名古屋市）について

デ・ウエスタン・セラピテクス研究所 (DWTI) は、「日本発の画期的な新薬を世界へ」を理念とし、より有用な医薬品を早期に患者の皆様に提供することを目指しているバイオベンチャーです。キナーゼ阻害剤の創製に強みをもち、自社創製の上市薬を保有しております。現在、眼科領域に注力し、患者様の最適な治療の選択に貢献できるよう取り組んでおります。詳細につきましては、DWTI ウェブサイト www.dwti.co.jp をご参照ください。

本件に関するお問い合わせ先

アクチュアライズ株式会社

取締役・管理部 加藤正彦 info@actualeyes.co.jp